糖尿病のおはなし

かしまDM（糖尿病）サポートチーム

みなさん聞いた事のある言葉　**'糖尿病'** この誰もが知っている病気についてきちんと理解している方はどのぐらいいらっしゃるのでしょうか？

“最近ちょっと血糖値が高いのよね。でも糖尿病の家系じゃないし。何にも症状ないから大丈夫よね…。”

こんな会話を聞いた事ありませんか？
本当に大丈夫なのでしょうか？

糖尿病かも…と気になっているあなたは、
もしかしたら**<糖尿病境界型>**かもしれません。

糖尿病境界型 とは、
糖尿病型と正常型のあいだで「糖尿病予備軍」のことです。数年以内に糖尿病を発症する確率が高いとされているので、食事や運動など日々の心がけが大切になってきます。

血糖値の判断基準

判断区分	空腹時	ブドウ糖 75g 接種 2時間後
異常なし〈正常型〉	<正常>100mg/dL 未満	140mg/dL 未満
	<正常高値>100～109mg/dL	
予備軍〈境界型〉	110～125mg/dL (IFG)	140～199mg/dL (IGT)
糖尿病〈糖尿病型〉	126mg/dL 以上	126mg/dL 以上

IFG：Impaired fasting glycaemia (glucose)
IGT：Impaired Glucose Tolerance（耐糖機能障害）
（日本糖尿病学会：糖尿病の分類と診断基準に関する委員会報告、2010・他より）

2017年度

糖尿病教室のお知らせ

当院では、みなさまが糖尿病とうまくお付き合いし楽しく生活できるように、『糖尿病サポートチーム』のスタッフがお手伝いをさせていただいております。血糖値について理解を深め、生活習慣を見直すきっかけにしてはいかがでしょうか？
日常のちょっとした工夫と心がけで、糖尿病をお持ちの方でも充実した生活が送れます。

- 糖尿病が気になる方
- ご家族の健康に不安をお持ちの方
- 血糖値が下がらない方

どなたでも自由に参加できますので、お気軽にお越しください。

場所 クリニックかしま会議室
日時 毎月第１火曜日　10:00～10:30

先月の糖尿病教室の様子

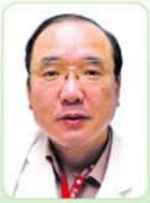
インスリン注射について、参加型の講義を行っています。

今後の予定

7月4日(火)『食事療法って大変？みんなどうしてるの？』
8月1日(火)『自己血糖測定 活用術！』こんなときどうしたらいいの？
9月5日(火)『リハビリについて』

ひんがら目

ひんがら目(121)



法律は一人歩きをします

時の権力者の解釈が永遠に通用するものではありません

いわゆる「共謀罪」新設法案をめぐって、安倍晋三総理は、当初「一般人は対象にはならない」と言明していました。この法律は、オリンピックに向けたテロ対策であり、特殊な団体を取り締まるだけだと説明していました。しかし、その後、一般人も対象になりうると解釈されています。

法律は成立した時点で立法者からは独立し、文言のみが一人歩きをします。文言が、意図した目的を果たせるのか、意図しない目的に拡大適応されないのか、他の既存の法律に矛盾しないか、などを言語学的に沈着冷静に判断する必要があります。そのためにこそ十分に論議が尽くされないと禍根を残します。司法の独立が不十分なわが国では、権力者は自分の都合のよいように法律を解釈しますから自身は困りませんが、法を適用される方は、不安な生活を強いられます。いか様にでも解釈できる法律は守り方が分かりません。法律にそむかないように努力していても、権力者の都合によって、あるときには合法、別の時には違法などと判断されます。また、権力者が交代するたびに異なった解釈をされるようでは法律としては失格です。

国会で平気で嘘の証言をし、嘘である証拠を示されると、「自分の記憶に基づいて発言した」「記憶が間違っていた」のであって、「嘘を言ったわけではない」とうそぶいた大臣がいました。さすが、屁理屈で黒を白と言いくるめる法曹界出身者です。

こんな大臣を任命し、擁護している官邸の最高レベルは、自らが関与した森友学園問題や、加計学園問題では、まずはわれ関せずと虚勢をはりました。その後、いろいろと証拠を提示されますと、証拠が偽物である、怪文書だと攻撃し、敵の弱点を攻めました。相手の人格を否定し、攻撃の勢いを牽制します。一方、論戦ではしどろもどろの答弁に終始し時間稼ぎをします。詭弁を弄し、追及の矛先を逸らします。支持率の高さゆえの驕りが、何をしても責められないだろうとの考えに至り、国民を愚弄しました。

個人情報保護法により、権力者の情報も保護されます。漏洩した情報は、特定機密保護法により公にされないように仕組まれています。一方、一般人の個人情報は実はバレバレです。パソコンの情報などは、専門家に掛かればすべてが白日の下に晒されます。富裕層はタックスヘイブンなどで税金逃れをし、勤労者はマイナンバーなどで経済状態を国家に見透かされます。こうなると貧富の格差はますます拡大します。

権力者の横暴を抑えるべき憲法がゆがめられようとしています。政権内部では、批判の声が挙げられないほど内部の締め付けは厳しくなっていると思われます。看過できないほどの政権の腐敗に直面し、相当の勇気と覚悟で文科省が反発しました。政権与党の方々も、権力中枢の横暴に辟易していると思います。しかし、猫の首に鈴をつけられる人がいません。というよりも、鈴をつけられないシステムがますます完成しているようです。

思考と言論の自由が束縛され、証拠に残らない圧力が横行する社会へとますます邁進しているようで、憂鬱な毎日です。

（呼吸器科　部長　山根　喜男）